



さんじょう

ことばで発見 ことばでひらく

校長 在家正行

一つの詩を紹介します。

ことばで発見 ことばでひらく

世界は ことばで できています
立ち止まって
静かに 耳を すましてごらん
ほうら
いろいろな ことばが 聞こえてくるでしょう
あなたに 聞こえた ことばは どんなことば？

あなたの ことばを 聞かせて
あなたの ことばで 聞かせて
ほうら
身近なことが よく見えてきたでしょう
遠くのものも 見えてきたでしょう

「ことば」は、「わたし」と「あなた」が対話しようとするところから生れます。
「ことば」を発見し、「ことば」で表現していく過程は、文化の創造です。



この詩に表されているのは問題解決（学び）の過程であり、人が「生きる」姿であります。三条小学校は、今、この詩に表されている「学び」を行っています。

この姿を、深め、広げていく。

それが、今、本校の歩んでいる姿です。

子供も、保護者も、地域の方も、先生方（同僚）も、よりよい世界に生きていたい、よりよい世界をつくりたい、という思いをもっているのは同じです。

よりよい世界をつくるために、人は、誰でも「知りたい」「解決したい」と思っていることがあります。その思いに耳を傾けてみましょう。

（あなたは どんな思いをもっているの？）

（あなたが 知りたいのは何？）

（あなたが 解決したいことは何？）

立ち止まって じっくりと 相手の心の言葉に耳を傾けてみましょう。きっと、分かり合え、問題は解決し、よりよい世界が実現されるはずですよ。

学校は 人間がよくなるところ

子供も 教師も 保護者も 地域の皆さんも
学校は、行けば(関われば) 幸せになるところです

立ってあげなきゃと思って

フラットアリーナの通りと八戸西高等学校へ向かう通りが交差するところにある信号のない横断歩道。ここは、住宅の増加、道路の整備等により交通量も増えているところの一つです。毎朝たくさんの通学する子供たちが通るところでもあります。この交差点に、先月から子供たちの通学の見守りをしてくださっている方がいらっしゃいます。交通安全協会上長支部の山田敏幸さん、矢沢地区にお住まいの鳥谷部由廣さんです。「たくさんの子供が通りますからね。立ってあげなきゃと思って」というお二方の言葉。ありがたく思います。

私は、山田さん、鳥谷部さんは、通学する子供たちの様子から、子供たちの思いに耳を傾け、心の言葉を発見し、(立ってあげなきゃ)という言葉で行動し、安全な状況を切り拓いたのだと考えます。まさに、「ことばで発見 ことばでひろく」の姿です。

この交差点の通学見守りには、6月7日から約1か月に渡り、駅前交番のお巡りさん、PTAの馬渡嘉子さん、岡本健吾さん、本校職員も協力して臨みました。御協力くださった皆様、ありがとうございました。



子供たちによる「小さなまちづくり」始まる — 6年生プロジェクト —



子供たちにとって、学校は「小さなまち」です。子供たちが自分たちで“よりよい学校生活をつくっていく力”は、自分たちで「まちをつくっていく力」であります。

先生に言われたからやるのではなく、自分たちが実現したい(解決したい)ことを仲間と共有し、方法を考え、協働して解決する。そのような子供たちがいる学校を実現したい。それが本校職員の夢です。

今、6年生を中心に、子供たちの「小さなまちづくり」が始まりました。

6年生プロジェクト第1弾「廊下、玄関を安全に歩こうプロジェクト」がそれです。昼休み時間に校庭に向かう子供たちが、校舎内の廊下、階段、玄関、そして屋外の通路を走る危険な状況を解消することが必要だと考えた6年生。数人で班を編成して走りそうなポイントに立ち、「安全に歩いてね。いっていらっしやい」と声を掛ける取組が始まりました。じわじわとその効果は表われ、今、屋外の通路を走る子供はほとんど見られなくなりました。三条小学校は、「子供たち自身がよりよい生活をつくっていかうとする学校」に向かって歩み始めました。今後は楽しみです。